

活動記録書

開催日： 令和5年10月5日(木) 天候：晴	開催テーマ： 浦郷観音道
開催場所： 横須賀市追浜地区	記入者： 松崎 寛
参加人数： 会員28名 ビジター1名 合計29名	
コース：追浜駅（集合）→正光寺→自得寺 →豊海稻荷→観音寺→榎戸湊・浦郷公園→能永寺(昇堂拝観)→正観寺(昇堂拝観)→独園寺→日産自動車前バス停（解散）	
<p>追浜駅から深浦湾に向かう山上にある観音寺は古くから三浦三十三観音の第二十二番札所で近隣の信仰を集めていた。この観音寺に至る道を「観音道」という。この近隣の寺社を巡った。</p> <p>商店街を横に入り、まずは「築島」。「女性たちがお籠もりしていた築島に落雷があったが、ビャクシンの木に落ち、彼女たちは無事だった。」と伝わる。ここに社殿をつくり、後に後北条時代の浦郷領主朝倉能登守が今の雷神社に移転させた。黒いビャクシンのみ残っている。</p> <p>さらに歩いて階段を上ると「正光寺」に着く。浄土宗良心寺末。本尊は木造阿弥陀如来立像で横須賀市指定重要文化財。開山は、寛文元年(1661)、頓誉上人。永い間廃寺であったが、昭和十三年先代住職や檀家などにより再興。本堂の外からだが、本尊を拝観することが出来た。</p> <p>次に「自得寺」へ。臨済宗建長寺派。本尊は聖観世音菩薩。開山は、応永元年(1394)、鎌倉の浄智寺の住職で聞叟玄令和尚。一時廃寺であったが、甲斐武田の臣の青木尾張守信定が中興。境内にある一石で造られた「五輪塔」は珍しい。明治の写真では自得寺の前に蓮田がひろがっている。当寺は、追浜駅近くまで、蓮田が広がっていたようだ。</p> <p>追浜東町商店街を通過して、「豊海稻荷」へ行く。祭神は倉稲魂神で五穀豊穰・商売繁盛の神。手前の手洗鉢には天保六年(1835)慶蔵院の文字が見られる。金沢の米倉丹後守陣屋跡にあった慶蔵院が移った場所はここだったのだろうか。興味はつきないが、路地の先に行くと、草に覆われている「やぐら」がある。かつては摩崖五輪塔が見られたそうだ。</p> <p>長い急坂を上って「観音寺」に向かう。浄土宗良心寺末で、本尊は木造十一面観世音菩薩立像。現在は無住である。創建は貞享四年(1687)、清蓮社布誉上人万碩和尚。寺の縁起によれば、昔九州日向の国に祀られていた本尊の十一面観世音は、ある人の夢枕で「有縁の地に行き災難を除き、子育ての観音として衆生を見守りたい」と告げた。ある人は船で東国に向かい難波し深浦に漂着した。この地で岩窟を掘り観世音を祀った。その後、堂宇が創建される。近在のみならず遠方よりの参拝客が押し寄せた。風光明媚の場所だったが、今は、木が生い茂り、眺望は良くない。</p> <p>山を下り、「浦郷公園」で休憩。ここは、鎌倉時代より知られた「榎戸湊」で今は埋め立てられているが、明治に至るまで船便の要衝であった。</p> <p>近くの「能永寺」に行く。この付近では珍しい時宗の寺。遊行寺派で清浄光寺末。本尊は阿弥陀如来立像。開山は、応永元年(1394)、其阿長立上人。本堂の外より拝観する。</p> <p>次は、「正観寺」。浄土宗良心寺末。本尊は阿弥陀如来坐像。開山は、天正年間(1573~92)、念蓮社称誉源公上人。本堂に上げていただき、参拝する。境内の薬師堂は「榎戸薬師」として知られている。境内に「ヘビノネゴザ」(蛇の寝御座)と呼ばれる貴重なシダが自生している。この丘陵一帯は朝倉能登守が陣屋を開いたところ、と伝えられる。</p> <p>深浦湾の沿った住宅地を歩いて「独園寺」に着く。臨済宗建長寺派自得寺末。本尊は木造宝冠釈迦如来坐像。開山は、元和五年(1619)、一峰乾存禅師。本堂に上げていただき、本尊や奥に祀られている正観世音菩薩像まで参拝することができた。</p>	
参加者の状況・意見など： 坂が意外にきつかったとの声もあったが、秋の日の寺社探索を楽しまれていた。	
次回の予定： 令和5年11月10日(金) 10時 JR北鎌倉駅(円覚寺側) テーマ：亀ヶ谷、扇ヶ谷の名刹一家康ゆかりの寺	